

研究課題名	同種造血幹細胞移植の全例調査（研究名略称：OCU11-A）
研究の意義・目的	造血幹細胞移植治療成績を改善し発展させていくためには、移植成績を調査把握し公表していくことが必要不可欠です。本研究は、当科で過去に造血幹細胞移植治療を施行された患者さん、または今後移植治療を施行される患者さんの全例を調査し、移植の種類、疾患、幹細胞ソース、ドナー、病態など種々の因子別に解析を行い、予後因子や治療成績を報告することで、今後の移植治療の改善と移植成績の向上を図ることを目的としています。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～2026 年 4 月 30 日
研究協力をお願いしたい方（対象者）	当科で過去に造血幹細胞移植治療を施行された患者さん、または今後移植治療を施行される患者さんが対象となります。対象疾患の例としては、急性白血病などの造血器腫瘍、再生不良性貧血などの造血障害が挙げられます。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ①基本情報：年齢、性別、身長、体重、血液型、抗体など ②初発時疾患情報：初発時血液検査、初発時 Performance status、血液細胞の染色体/遺伝子異常の有無 ③移植時情報：血液検査（末梢血血算、白血球分画、リンパ球サブセット、止血・凝固系検査など）、生化学一般（電解質、タンパク分画、γグロブリン値、血糖値、甲状腺機能、鉄代謝、感染症スクリーニング検査、クレアチニンクリアランス）、検尿、心機能（心臓エコー、心電図）、呼吸機能検査、腹部エコー、SpO₂、胸部 X 線、副鼻腔 CT、移植時病期（骨髄検査・CT 検査など診断の必要に応じて行った検査）、移植回数、ドナーソース情報、患者/ドナーHLA、前処置方法、輸注細胞数、GVHD 予防法、移植日 ④移植時経過情報：治療関連毒性、生着、使用した薬剤、輸血種類・回数、急性 GVHD、慢性 GVHD、感染症、生存、再発の有無、死因、移植後の病期、移植後ドナーリンパ球輸注、二次癌、晚期障害情報
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院 血液内科・造血細胞移植科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院 血液内科・造血細胞移植科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	研究責任者：大阪市立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学 教授 日野 雅之
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学 日野 雅之 電話番号：06-6645-3881 FAX：06-6645-3880